

障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定に係る関係団体ヒアリング意見一覧

(順不同, 敬称略)

団 体 名	団体からの意見
<p>加古川市身体障害者福祉協会 (主たる障害種別：身体)</p>	<p>【移動支援】 肢体や体幹に障がいがある方に対し、外出時の行動を援護するような福祉サービスを実施してほしい。移動支援は、身体障がい者に対する条件が厳しく、利用することが難しい。</p> <p>【差別解消促進】 商業施設や道路のバリアフリー化について、店舗入口前の段差や和式トイレなど、今ひとつ進んでいないように感じる。</p> <p>【交通政策】 運転免許証の返納者が増加する中で、ドア to ドアの移動ができないと、自宅に引きこもってしまう原因にもなり、急に元気がなくなってしまう。市の規模が違えど、実施している自治体もあるので、参考にし、検討してほしい。</p>
<p>加古川市視覚障害者福祉協会 (主たる障害種別：身体)</p>	<p>【同行援護】 基本時間数 40 時間と臨時時間数 20 時間があるが、基本時間数を 50 時間にしていきたい。 また、臨時時間についても、現状は 3 ヶ月連続で利用すると、1 ヶ月は利用できなくなってしまうため、制限を緩和してほしい。</p> <p>【日常生活用具】 ルーペや点字タイプライターなどを実際に使用しているが、大変助かっている。今後は、スマートフォン等の普及が進んでいるため、リボ 2 などの付属機器も対象にしてほしいと考えている。</p> <p>【差別解消促進】 市内に点字使用者が 30 名ほどいるが、「障害福祉のしおり」の点字版を、市の窓口での閲覧のみでなく、数年に 1 度は配付してほしい。全員へ配付が難しければ、協会に 1 部提供していただけないか。</p>
<p>加古川ろうあ協会 (主たる障害種別：身体)</p>	<p>【手話言語及び障害者コミュニケーション促進条例】 高齢になっていくにつれて、ヘルパーを利用することが増えていくが、現状として手話ができるヘルパーはほとんどいない。筆談でのコミュニケーションにも限界があるため、ヘルパーとの円滑な意思疎通を図るため、手話通訳者を派遣できるように検討してほしい。</p> <p>【差別解消促進】 感染症対策で職員がマスクを着用していることが多いが、ろうあ者は話し相手の表情を読み取ることで、コミュニケーションを取るため、フェイスシールドを積極的に取り入れてほしい。</p>

団 体 名	団体からの意見
加古川中途失聴・難聴者協会 (主たる障害種別：身体)	<p>【差別解消促進】 実際に生活する中での困りごととしては、町内放送が聞こえないため、情報を得るタイミングが遅れてしまったり、逃してしまうことがある。</p>
加古川市肢体不自由児(者) 父母の会 (主たる障害種別：身体)	<p>【日中一時支援】 医療的ケアが可能な事業所がなく、事業所側も現状の報酬単価では参入が難しいと聞いている。そこで、既に医療的ケアが可能である生活介護や短期入所の事業者における日中一時支援の実施や、報酬についても放課後等デイサービスのように重心枠を設けることで、医療的ケアが可能な日中一時支援事業所が増えると利用者側として大変助かる。</p> <p>【重度訪問介護】 市内では、共同生活援助を利用しながら重度訪問介護を利用することが困難で、他市に転居された方が複数いる。(他市では共同生活援助ではなく、シェアハウスのような形態) 加古川市に居住したまま、グループホーム等で重度訪問介護を利用し、自立した生活を送ることができるようにしてほしい。</p> <p>【加古川市福祉タクシー】 1回の利用枚数の制限を緩和していただいたが、医療的ケアが必要な場合、介護タクシーでないと移動が困難であるが、費用負担が大きく、実際には利用しにくい現状である。介護タクシーを利用する際の年間配付数や1回の使用制限枚数について、再度ご検討いただきたい。</p> <p>【日常生活用具】 人工呼吸器等、医療的ケアには電源が必要なものがある。停電時にはポータブル発電機や蓄電池による電源の確保が必要になるが、非常に高価であるため、費用負担の軽減について検討いただきたい。</p>

団 体 名	団体からの意見
<p>加古川市手をつなぐ育成会 (主たる障害種別：知的)</p>	<p>【短期入所】 普段から利用しようとしているが、利用できていない方(強度行動又は重度)がいる。職員体制が十分ではないので、整備してほしい。</p> <p>【共同生活援助】 軽度の方が多く利用している印象があるため、重度の方が居住可能な共同生活援助の整備をお願いしたい。</p> <p>【計画相談支援】 計画相談が適正に行われるよう、相談支援専門員の受け持つ件数に上限を設定し、モニタリング等が適切に行われているかチェックしてほしい。 相談員が1名欠員したことにより、次の事業所を探すように言われた利用者がある。適切な対応と人材育成をしてほしい。何かあったときの相談員は大切であると実感した。関係性を構築することが大事である。</p> <p>【障害児通所支援】 重度の障がい児の早期療育を進めるために、各種機関の連携体制を整え、ネットワークを作してほしい。</p> <p>【放課後等デイサービス】 母子家庭や親族が近くにいない方など、人によって適切な日数を支給してほしい。日中一時支援の利用を促されるが、母親のレスパイト目的で利用するものと思っている。 また、事業者の取組内容についても、適正に行われているかチェックしていただきたい。指導についても、子どもにとってプラスとなるようにしていただきたい。</p> <p>【移動支援】 保護者の高齢化が進み、本人が地域生活を送るために、また、社会参加をするためには移動支援がより必要になってくる。ガイドヘルパーの養成や報酬単価の増額をお願いしたい。</p> <p>【日中一時支援】 市内に点在するように事業所を増やし、それぞれの家庭から近くにあれば利用しやすい。</p>

団 体 名	団体からの意見
<p>心のワークセンター (主たる障害種別：精神)</p>	<p>【差別解消促進】 精神障害は、いじめ等の問題から中学校、高校時代に患うことが多い。そのため、授業の中で精神病に関することを取り入れてもらい、少しでも理解を深めてほしいと思っている。</p> <p>【訪問支援】 発作が起きた場合や不穏になった際などの緊急時対応について、医師や保健師による訪問型の支援があれば助かる面が多い。ACTを設置してもらうことで、圏域での精神障害福祉の充実を図ることができる。</p> <p>【障害者虐待の防止】 精神障害の場合、偏見、差別、世間体等がまだまだ残っている。当事者本人も病識がなく、家族で抱え込み我慢し治療が遅れ、回復が遅れてしまう。また、家族による差別もあり、より回復が遅れてしまうこともある。</p>
<p>ユーアイネットすぎな (主たる障害種別：精神)</p>	<p>【障害福祉サービスの質の向上】 近年、就労継続支援B型事業所が増加しているが、他の事業所から移ってこられた利用者からの話を聞くと、他の事業所の環境が心配になる。とても狭い空間の中で作業をされていることも考えられるので、行政として現場の状況を確認してほしい。</p> <p>【就労継続支援B型】 新型コロナウイルスの影響もあり、市での就労訓練の機会が減少している。そのため、工賃が少なくなっているため、就労訓練場所と回数の確保を希望する。</p>